

北九州市の伝統工芸品“小倉織”を学ぶ

北九州市を代表する伝統工芸品の一つに“小倉織”があります。古くは江戸時代からたて縞を特徴として丈夫で良質な木綿の布地として知られてきました。

小倉高校の制服“霜降”もかつては小倉織でできており（現在は化学繊維でできている）、明陵同窓会の皆様より寄贈いただいた講堂の立派な緞帳も小倉織でできています。北九州、そして小倉高校にゆかりのある“小倉織”を学ぼうと株式会社小倉縞織の堀内織恵氏（高校49期）にお話を伺いました。

広く知られた小倉織を現在に復活させたのは築城則子氏（高校23期）です。築城氏は著名な染色家でご自身で作品を制作されながら、小倉織の魅力を精力的に国内外に発信する活動をなさっています。その作品は世界各地で展示され、高い評価を得ています。堀内氏によれば、長い歴史と共に発展してきた小倉織だからこそその魅力があるそうです。最近ではSDGsの視点を取り入れて環境に配慮した布地の作成や、その啓発活動も行っています。このような伝統工芸と社会課題への先進的な取り組みのコラボレーションも小倉織の新たな魅力の一つになっていくと感じました。

そのデザインや機能性だけでなく、長い伝統とそれを引き継ぎ発展させようとする熱い思いをもった方々が紡ぐ小倉織は大変に魅力的でした。そしてその小倉織が私たち小倉高校と深く結びついていることを知り、とても誇らしく感じました。小倉織のよさを一人でも多くの人に知ってもらいたい、そのように感じることでできた貴重な時間でした。

今回の訪問と学習に際して、染色家の築城則子氏、株式会社小倉縞織の堀内織恵氏には多岐にわたりご協力をいただきました。感謝申し上げます。



左：堀内氏より小倉織の説明を受ける生徒たち



右：小倉織で制作された本校講堂の緞帳